

桶川市

～「ようこそ  オケちゃんキッチンへ」～

(1) 桶川市の概要

(ア) 市の基本情報

本市は、東京から 40 km 圏にあり、埼玉県のほぼ中央に位置している。市域の中央を南北に JR 高崎線、国道 17 号が走り、東は久喜市、蓮田市、西は川島町、南は上尾市、伊奈町、北は北本市、鴻巣市と接しています。地勢はおおむね平坦であるが、東部の市境に元荒川、西部の市境には荒川が流れている。

江戸時代には中山道の宿場町として繁栄し、米麦、べに花の集散地として物流機能を担い、大麦は桶川麦、べに花は桶川臙脂として全国的に知られるようになった。

昭和 40 年代に首都圏のベッドタウンとして人口が増加し、昭和 45 年に市制施行をし、その後は、駅西口開発や土地区画整理事業の推進により、人口も平成 18 年には 7 万 5 千人を超えた。しかし、少子高齢化の状況はかわらず、高齢化率は 23% と県平均を上回っていることから、子育て施策とともに高齢者施策の充実に取り組んでいるところである。

① 面積	25.26km ²
② 人口	75,875 人
③ ②のうち 65 歳以上人口 (再掲) ※【 】内は高齢化率	17,172 人 【22.6%】

(平成 24 年 1 月 1 日現在。町(丁)字別人口調査)

(イ) 人口分布概要と見込み

人口の将来推計では減少傾向にあるものの、高齢化率は、県平均と比較してやや高く、今後も急速に高齢化が進展すると予想されている。

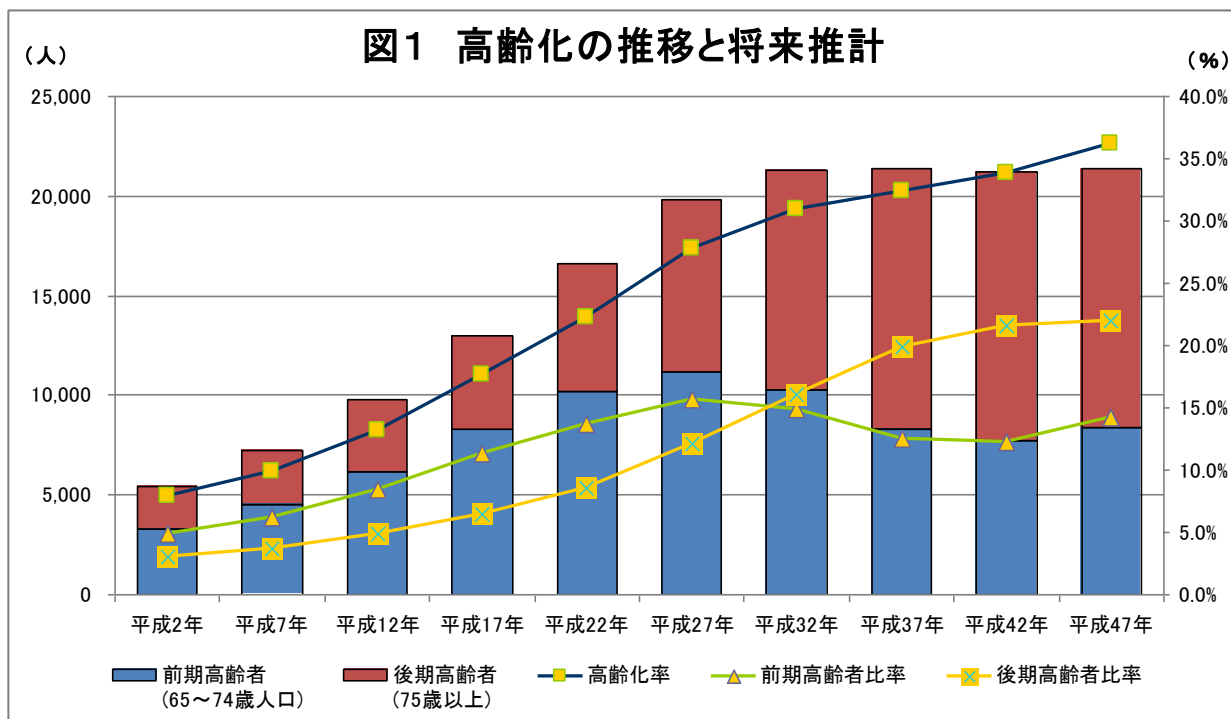
表 1 高齢化の推移と将来推計人口

(人)

年	国勢調査人口					将来推計人口				
	平成 2 年	平成 7 年	平成 12 年	平成 17 年	平成 22 年	平成 27 年	平成 32 年	平成 37 年	平成 42 年	平成 47 年
総人口	68,703	73,084	73,967	73,677	74,711	71,254	69,057	66,176	62,799	59,124
前期高齢者 (65～74 歳)	3,328	4,529	6,182	8,293	10,194	11,184	10,269	8,305	7,708	8,412
後期高齢者 (75 歳以上)	2,115	2,698	3,566	4,727	6,414	8,643	11,064	13,106	13,547	12,982
高齢化率	7.9%	9.9%	13.2%	17.7%	22.2%	27.8%	30.9%	32.4%	33.8%	36.2%
前期高齢者 比率	4.8%	6.2%	8.4%	11.3%	13.6%	15.7%	14.9%	12.5%	12.3%	14.2%
後期高齢者 比率	3.1%	3.7%	4.8%	6.4%	8.6%	12.1%	16.0%	19.8%	21.6%	22.0%

平成 22 年までは、国勢調査人口

平成 27 年以降は、『日本の市区町村別将来推計人口』(平成 20 年 12 月推計)(H17 国勢調査から推計)



(2) 桶川市の取組

(ア) 取組の概要

本市には、食生活改善推進員協議会（以下「協議会」という。）が昭和60年に設立されている。

協議会では、会員63名が6つの班に分かれて、毎月の定例会と自主活動を中心に保健センターを拠点として、日々会員の技術の研鑽と親睦、相互の連絡を深め、食生活改善を通して市民の健康増進の推進に努めている。

本市では高齢者人口も年々増加し1万7千人を超え、高齢化率も23%を超えていることから、高血圧、糖尿病等の生活習慣病予防が急務となっている。そうしたなかで市民の健康長寿を推進するため、県の指導もあり、会員のスキルアップ講習会を実施した。

そのスキルアップ講習により、高齢者の方に健康で長生きしていただくよう、独自の健康長寿のメニュー作成に取り組む予定である。そして、その健康長寿メニューを持って地域の食育リーダーである協議会会員が公民館等を利用して本市のマスコットキャラクターオケちゃんから「オケちゃんキッチン」として普及活動を展開していく予定である。

結果として医療費全体及び介護給付費の減少につながる一つの要因となると思われる。

(イ) 取組の契機

① 高齢化率の上昇

65歳以上の高齢者人口は毎年1%上昇しており、国民健康保険の保険給付費も23年度決算では52億円を超え、毎年6%の伸びとなっている。今後も県や全国を上回るペースで高齢化が進展することが予想されているので、健診や軽運動の推進とともに食を通じた予防事業の充実も大きな課題となっていた。

② 食育環境がある

保健センター、公民館などの公共施設に6か所調理室がある。

③ 設備投資不要

既存の施設を活用して伝授し、各家庭で実践とすることから新たな設備投資は不要である。

④ 男女とも料理づくりの興味がある

男性料理教室の開催案内では、すぐに定員となる。また、学校の休み期間に開催する小中学生の料理教室にも女子だけでなく男子の参加も見られる。



(ウ) 取組の内容

事業名	ようこそ オケちゃんキッチンへ促進事業
事業開始	平成24年度～

	平成24年度	平成25年度
予算	5万円 ・材料費 3万円 ・レシピ印刷 1万円 ・普及チラシ 1万円	10万円 ・材料費 5万円 ・レシピ印刷 1万円 ・啓発グッズ 3万円 ・消耗品 1万円
参加人数	100人	150人
期間	平成24年4月～平成25年3月	平成25年4月～平成26年3月
実施体制	保健センター	保健センター、公民館、自治会、老人会、

① レシピの作成（平成24年10月～）

地元食材の野菜を使った料理レシピを作成。

② 参加者の募集（平成25年度）

自治会や老人会などへ参加者の募集を行う。

③ 参加者の健康チェック（平成25年7月～平成26年3月）

参加者には、保健センターや公民館に設置してある体重計、血圧計で事前に健康チェックをして参加してもらう。

④ 実践後のレポートの提出（平成26年3月）

年度末に、実践した方からのレポート提出をお願いし、さらに普及活動に活用していく。

(エ) 取組の効果

① 生活習慣病の予防効果

健康意識の高揚とともに、食に対する新たな認識が生まれ、体調維持の効果があると考えられる。

② 地方自治体にとっての効果

短期間では難しいが、市全体の1人当たり国保医療費の若干の低下が期待される。

(オ) 今後の取組

① 健診、生活指導との連携

特定健診やがん検診、介護予防との連携を進めたい。

② 「オケちゃんキッチン」の開設

健康長寿メニューを開発するとともに、将来的には「べにばなふるさと館」や今後設置される「道の駅」等でも取り扱いできるように努めたい。